

校長室だより



安心・安全・命だいじ
河内長野市立加賀田小学校



11月

一人ひとりがキラッとかがやき、笑顔にあえる学校

校長 寺垣 真二

防災教育の大切さから

秋もいよいよ深まり、肌寒い日が多くなりました。10月は、運動会や遠足など、子どもたちにとって「わくわく」した月間だったと思います。その中で保護者のみなさまにはいろいろとご理解ご協力いただき本当にありがとうございました。

さて、本校では、自然災害に向き合う態度の育成として、10月1日には、地震の避難訓練をおこないました。土砂災害や家屋の倒壊、火災等地震による災害を想定しておかないといけません。この夏には、鹿児島沖で強い揺れを感じ、地中のプレートの関係から「南海トラフ地震注意」という予報も発出され、海水浴場も封鎖されるなど警戒態勢がひかれました。専門家によると南海トラフ地震が今後発生する確率は、今後30年以内に約70%～80%と言われています。災害が多い日本では、仕方がないことだと思いますが、その備えをいかにしているかが重要になってきます。

自然災害の備えとして学校では、避難訓練等を通じて「自分の命は、自分で守る」ための防災教育をおこないつつ、マニュアル通りしっかり動ける力をつける避難と同時に、その一段階上のマニュアルを越えた柔軟な対応も時には、必要だとも教えています。

東日本大震災時にあった「釜石の奇跡」をご存知でしょうか？「自分の命は、自分で守る」という意識を訓練等で高めた甲斐があり、マニュアル通りに避難していた小学生達を「ここでは、まだ危ない」ということで、中学生が主体になって更に高台へと小学生を導いた結果、小中学生約570名は、一命を取り留めました。その後、先ほどマニュアルで一時避難した場所は、津波にのみ込まれたということでした。

本校においては、まだ小学生の発達段階という事もあって、災害時、勝手な行動を一人ひとりがするより、まず全体で先生の指示に従って、素早く避難することを第一におこないますが、第二段階として、主体的に行動できる危機管理も大切だと考えています。安心安全な学校づくりを今一度、考える

ことで意識を高めるようになります。危機管理意識の醸成が、大切な命を守ることにつながり、共助という行動も生まれてくると思われます。ご家庭でも防災意識を向上させることで、郷土愛が高まると言われており、防災との相乗効果が期待できると思われます。一つのきっかけになれば幸いです。

「備えあれば憂いなし」「段取り八分 仕事二分」

防災教育の観点から『備え』の大切さを感じる事が出来ますが、私たちの普段の生活の中でもいえる事です。上記の格言は、私たち学校社会でも通じるものがあり・・・例えば「授業」。楽しい授業、わかる・できる授業、時間が短く感じる授業、自分たちが活躍できる授業、わくわくする魅力的な授業。このような授業は、「行き当たりばったり」の授業ではなく、「考え練られたもの」であり、事前の準備が大切になります。先生の働き方にも関わってくるものですが、本校の教職員は、子ども達のために日々頑張ってくれています。

普段の生活でも、準備をしっかりしておくこと、上手くいく事は多々あります。しかし、その準備がなかなか出来ないのが現状ではないでしょうか。少し面倒なことは、後回しにしたり、やらなかったり・・・。時間を大切にするタイムマネジメントをおこない、てきぱき行うべきことをし、時間を有効に使っていきたいものです。そして、『備え』や『準備』を確実にし、生活が円滑に進んでいければと思います。



避難訓練の様子

